

## スポーツ立国戦略と大阪体育学研究

大阪体育学会副会長 中塘二三生（関西学院大学）

文部科学省では、これまでの「スポーツ振興法」を見直し、今後の我が国のスポーツ政策の基本的方向性を示す「スポーツ立国戦略」を策定された（平成22年8月26日文部科学大臣決定）。同策定では、「スポーツは、世界の人々に大きな感動や楽しみ、活力をもたらすものであり、言語や生活習慣の違いを超え、人類が共同して発展させてきた世界共通の文化の一つである」と唱われている。さらに「スポーツは、人格の形成、体力の向上、健康長寿の礎であるとともに、地域の活性化や、スポーツ産業の広がりによる経済的効果など、明るく豊かで活力に満ちた社会を形成する上で欠かすことのできない存在である」とし、そして、「より多くの人々がスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、スポーツを支え、そしてスポーツを育てることを通じて、スポーツの持つ多様な意義や価値が社会全体に広く共有され、我が国の『新たなスポーツ文化』が確立されることを切に期待する」とされている。大阪体育学会においてもスポーツ立国戦略の趣旨を踏まえた活動が望まれるが、一方では現在の子どもの体力低下が危惧されることから、その防止や新たな展開の在り方についても議論されている。体育・スポーツの実践や指導には大きな意義があるが、体育・スポーツの実践や指導に関する新たな知見や提言を行う場（機会）は、大阪体育学研究と考える。そして、新たな知見や提言は、読者（会員）諸氏から批評や評価を受けることによって、さらなる展開があると思われる。